

移動用リフトをさらに便利にするスリングシート

身体を抱える介護は介護に携わる家族や介護スタッフの身体を壊してしまいます。それだけでなく、抱えられる被介護者にも大きな問題を引き起こすのです。具体的には抱えられて、身体にいびつな力が加わることで知らないうちに骨折することもあります。抱えることで筋に緊張をよび、拘縮を引き起こすこともあります。抱え損ねて床に落としてしまうこともありますね。

こんなことが起きたら、ついつい高齢者、障がい者を離床させることがおっくうになりベッドから離れる機会は更に減っていきます。離床時間が減ればさらに身体の機能は衰えていきます。

その悪循環を断ち切る道具として、介護保険レンタルで導入可能な移動用リフトはもっと普及する必要があります。が、リフトを忌避する人がいるのも事実です。その方々の多くがスリングシート(身体を包み込む布)の装着が面倒だというものです。しかし、この装着は慣れさえすれば、誰でも簡単に短時間でできます。

それでも食わず嫌いをしている人にお勧めしたいスリングシートができています。

今回はふたつのシートを紹介します。

ひとつはモリトー社が発売する「パオ」

もう一つは竹虎が発売する「かるがるスリング」です。

ふたつの商品の共通項はベッドに敷いておだけ。身体を持ち上げるときはシートのベルトをリフトに引っかけるだけで座位の形になるものです。シートをかける際に必要な「身体の下に敷き込む」「シートの下部を両足部分で交差させる」手順を省力化するものです。シートの装着に慣れない人でも利用しやすいものです。一度リフトを使ってみようかなとお考えの人にお勧めします。

こちらは竹虎「かるがるスリング」



こちらはモリトー「パオ」



能登の震災に重ねてみる乙訓

新年早々に起きた能登での大震災。

被災者の皆さんには1日も早く安心な生活を取り戻して頂きたいと強く願っています。

今回もまた政治は被災地で暮らす障がい者、高齢者に過酷な環境を与えているようです。それは阪神淡路、東北の震災を体験しても、ほとんどの国は学んでいないように思われます。

大きな被害に苦しむ障がい者、高齢者の避難を行政がイニシアティブをとって行ったという話はとんと聞かれません。

もちろん未曾有の被害の中、完璧を求めるのは酷だとは思いますが、だからといって自助、共助で何とかしなさいというのも違うと思うのです。

これはわたしが乙訓での水害時、身体が不自由な母を見て思うことです。

車椅子の母を介護するのは当時80歳の父でした。外は大雨。どうやって避難できますか？

大雨の中、地域の方が車に乗せて避難させられますか？

身体が不自由な母を安全に乗せられる車もありません。

あの時、避難したくともできずにわたしの両親は町の中で孤立したのです。

予告できた水害ですら避難はハンディのあるものはできないのが実態です。まして大震災では地域の力では不可能です。だけど、乙訓2市1町の計画ははまだ地域の人もかせ。自助、共助です。

公的に地域の人を守る体制を構築するには圧倒的に知恵もお金も足りません。

「お金がないからねえ」と私たちはあきらめなければならぬのでしょうか？

我が国はまだ起きてもない戦争の準備に防衛費を倍加できる国です。軍備を増やせば今度はその維持費で国の予算は消費し続けます。

国際関係は外交的努力で危機を遠ざけることができます。災害は危機を遠ざけることのできないものです。

同じお金をかけるのならば災害に対応できる体制作りにお金をかけて頂きたいものです。

新型コロナウイルス インフルエンザ感染拡大に伴う利用者みなさんへのお願い
●サービス利用中は可能な限りサービスご利用の方もマスクの着用をお願いします。
●利用者、同居の家族のかたの体調不良(発熱など)はあらかじめきょうと福祉倶楽部までご連絡ください。

有限会社 おとくに福祉研究所

きょうと福祉倶楽部

〒617-0824

長岡京市天神4丁目7-12 ハイッ東 101号

TEL 075-958-2560

FAX 075-957-2808

E-mail info@fukushi-club.com

